「形容詞＋名詞」における修飾関係

——転移的形容詞を中心にして——

三　浦　　誠

序　文

形容詞とは何か。現在まで，それは多くの研究者により形容詞の機能について意味論的，あるいは統語論的などに基づいて分類されている。Jespersen (M. E. G. II. Ch. 12) は，形容詞を名詞との修飾関係を基準にして，次のように分類している。

○直接付加詞 (Direct adjunct)

例：a young lady (=a lady who is young)

○間接付加詞 (Indirect adjunct)

1) 転移従接詞付加詞 (Shifted subjunct adjunct)

例：a hard student

2) 部分付加詞 (Partial adjunct)

例：a practical joker

3) 複合付加詞 (Compositional adjunct)

例：a sick room

本稿では，間接付加詞を広義の意味での転移的形容詞 (transferred epithet) と見なし，この用法の領域を多くの文献から学びうることを組織的にまとめて，「形容詞＋名詞」の修飾関係を考察していきたい。

1. 転移的形容詞について

形容詞について注意を要す1用法は，修辞学で「転移的形容詞」と呼ばれるものの1種である。『英語学辞典』(成美堂) で，転移を「ほんらい修

飾すべき語から離れて，形式上他の語の修飾語となっている形容詞」と説明している。すなわち，形式上は「形容詞＋名詞」という語結合(collocation) をとりながら，意味の上からは形容詞は名詞以外の語を修飾語として用いられているものである。たとえば，

He lay his head on a sleepless pillow.

において，形容詞 sleepless は文法的には次にくる pillow という語を修飾しているのであるが，意味の上からは，主語である He と関係している。つまり，「寝れない」のは「枕」ではなく「彼」である。よって，この転移的形容詞は動作をしている動作主の状態を表わしている。言い換えれば，

He lay sleeplessly his head on a pillow.

のように，He と関係すべき sleeplessly がその位置を移され，また名詞を修飾でき得る形容詞へと 'shifting' されて意味の上からは関係ない名詞 pillow を修飾しているのである。このようにしてできた「sleepless＋pillow」という表現は incongruent な語結合といえる。しかし，転移的形容詞を，本来修飾すべき位置に移しても解決できない場合がある。これは転移的形容詞と名詞の修飾関係の中に圧縮表現が含まれていたり，形式と意味との間にいくつかの 'shifting' がおこなわれるからである。これがまさしく特殊な語結合を生む原因である。

1-1. 転移的形容詞の分類

転移的形容詞の意味上関係する主要語は，

a) 形容詞に先行する代名詞「人」である場合と，文脈に明示されている代名詞「人」である場合：

He was able in his dying moments to look back upon a useful life.——Doyle, A Study in Scarlet (いよいよ死ぬ時)

上文の in his dying moments は in the moments in which he was dying と同義である。つまり，「形容詞＋名詞」表現における形容詞 dying と名詞 moments の関係は形容詞が後に続く名詞を直接修飾する関係ではない。

形容詞 dying は「人」を表わす代名詞についての叙述を示すものであり，名詞 moment はその叙述の存在する「時間」を意味的に示している。二，三の例を掲げてみると，

I never see the beat of it in all my born days.——Mark Twain, The Adventures of Huckleberry Finn（私の生まれた日）

He had good schooling in his young days.——Stevenson, Treasure Island（彼の若い時）

It was a melancholy, rather ill-tempered evening, for they were all tired.——Galsworthy, The Apple Tree（憂うつで，多少気むずかしい晩）〔意味上の主要語は they〕

I led them on, in this distracted fear.（気が狂わんばかりの恐怖）〔意味上の主要語は them〕

He spent a fearful night alone in the wood.——Eliot, Silas Marner〔意味上の主要語は he〕

b) 「人」と関連ある名詞である場合：

But she checked him at once, looking up at him with a swift glance and an angry flush upon her cheek.——Stevenson, Will O' the Mill（すばやくちらっと見ること）

この主要語 glance は「一べつすること」という動作を示しているが，この動作が肉体に関係あるものである。つまり，裏で「動作主」が感じられる。そして，形容詞 swift は，意味上，「人」についての状態を描写している。故に，この形容詞は名詞に対して修飾の仕方が主体的である。

He regard the young man with an uneasy smile.——Gissing, The House of Cobwebs（陰気な顔）

He has an ungainly walk.（ぶざまな歩き方）

c) 動詞的要素を含んでいる場合：

A wide traveler

においては，「a traveler who is wide」の意味ではなく，「a person who

travel widely」の意味である。つまり，形容詞 wide は副詞 widely から 'shifting' してできたものであり，名詞 traveler は動詞 travel に動作主を示す接尾辞 -er を付けて名詞化したものである。この 'shifting' 過程を表わしてみると，第一に a person who travels widely が who travels のところで名詞に表わすという 'shifting' が行なわれ，whose traveling となり，これに従って widely は wide に 'shifting' され，a person who traveling wide となる。この後は関係詞削除と形容詞の置換えにより，a wide traveler の語結合になる。このように分析して見ると，名詞 traveler が「広い」のではなく，意味上は，名詞 traveler の中に含まれている動詞的要素を修飾する副詞の役目をしている。これに類するものに次のようなものがある。

……the cherry dreamer chanced to turn his eyes upon a spot of desolation.——Gissing, The House of Cobwebs (陽気な夢想家)

Mrs. Strong was a very pretty singer.——Dickens, David Copperfield (とても上手な歌手)

I came but now from such a death-bed, and the room was full of sincere mourners, listening to the man's last words.——Stevenson, Markheim (まじめな弔問客)

I became in all things a free actor in the world.——Ibid. (自由な役者)

Fanny was a first picher and it was all I could do to keep up with her.——Caldwell, The Strawberry Season (早く摘む人)

Moreover, he was requested to introduce no other person to the house, even as casual visitor.——Gissing, The House of Cobwebs (不時の来客)

d) 結果の形容詞によって修飾される場合：

It was a pleasant sight. (愉快な光景)

本来，形容詞は状態記述形容詞で，名詞が表わす対象物の状態を記述する

が，上例のような文では，「人を楽しくさせる」の意味で，形容詞 pleasant は，そういう状態を「人」に結果として及ぼすという意味で，文脈には直接関係のない「人」を修飾している。

As soon as he slipped out of the stuffy house, the live air, perfumed with freshness from meadows and hills afar, made his blood pulse joyously.——Gissing, The House of Cobwebs（活気とした空気）

If I don't, you'll have the pleasant job of taking me to a hospital. ——Ibid.（気持のよい仕事）

'And now I hope you're satisfied!' exclaimed her mother, with tearful wrath.——Gissing, A Daughter of the Lodge（悲しい激怒）

No news is good news.（よいたより）

the drowsy warmth of the afternoon（眠くなるような午後の暖かさ）

e) 特示形容詞 (Distinguishing adjective) によって修飾される場合：

特示形容詞は吉川美夫氏が『英文法要説』（改訂新版，pp. 16—8）の中で，「名詞についてその性質や状態を記述するのではなく，話者がその名詞に対して注釈を加える形容詞を特示形容詞と名づけている。」また，同氏は『文』（下）の中で，間接的な名詞修飾語句を7つに分類していて，その中に「修飾語が特示副詞 (Distinguishing adverb) または確信の副詞 (Adverb of assertion) に相当するものがある。この種のものにも部分付加詞がある。」と述べ，次のような例をあげている。

A perfect stranger (=a person who is perfectly a stranger)（赤の他人），a mere blunder（全くの失策），a probable winner (=a person who will probably win), simple madness（全くの狂気）

この中で，probably を確信の副詞としている。

このような観点から，ここで特示形容詞と呼ぶのは，主要語の名詞が持つ一定の意味特性を話者が特に示す機能を持つもので，transferred epithet

の一種である。

I am an utter stranger to the place.

上文の「形容詞＋名詞」の表現の an utter stranger は a stranger who is utter の意味ではなく，a person who is utterly strange の意味である。この副詞 utterly は Curme が『Parts of Speech and Accidence』と『Syntax』の中で述べている特示副詞であり，「程度」の副詞とは全然使用目的が違う。つまり，形容詞 utter は特示副詞の 'shifting' された特示形容詞であり，表現的に，「be strange」ということがぴったりであるという話者の心持を表現しているのである。なお，この特示形容詞は大体，「全くの」，「全然と言ってもよいほどの」などの意味に帰するが，これは主要語である名詞に内在する形容詞的要素に話者の心的態度を表わす役目をするだけである。二，三例を掲げておこう。

It seemed to him sheer ingratitude to throw blame on Mr. Spicer's house.——Gissing, The House of Cobwebs（全くの恩しらずの行為）

……his position would be that of a mere pauper,——Ibid.（全くの乞食）

She explained that her purpose was rest; intellectual strain had begun rather to tell upon her, and a few days of absolute tranquility, such as she might expect under the elms of Prent Hall, would do her all the good in the world.——Gissing, A Daughter of the Lodge（全くの静けさ）

It is a regular downpour.——Gaskell, Cousin Phillis（全くのどしゃぶり）

"They are quite strangers to me," she said.——Lawrence, Women in Love（全くの見ず知らずの人）

……; still, if looks have language, the merest idiot might have guessed I was over head and ears; . . .——Brontë, Wuthering Heights

（全くのばか者）

最後の例は mere が最上級になっているが，これは絶対最上級（Absolute superlative）である。

f） 法形容詞（Modal adjective）によって修飾される場合：

「形容詞＋名詞」表現の形容詞を見てみると，いわゆる法副詞（Modal adverb）になり得るものがある。話者の確信の程度や，叙述に対する話者の判断などを示す副詞は，文修飾副詞として見なされている。これらの文修飾副詞が，ある 'shifting' という過程をへて，名詞を修飾できる形容詞になると考えられる。たとえば，his probable death では，一口に言って基底に Probably, he will die. があって，それに圧縮と 'shifting' 操作を加えて生じたものである。He will die. で表現されるところを１つの名詞 death に圧縮し，かつ 'shifting' するために，法副詞である probably も当然名詞 death を修飾でき得る形容詞へ移行し，incongruent な語結合が生じたのである。つまり，形式上は形容詞 probable が shifting によってできた名詞 death を修飾している形になっているけれども，意味上は，名詞化した death を含む――彼が死ぬこと――が表わす出来事に対する話者の可能性を表わしている。このように，法副詞と共起する形容詞には次のようなものがある。

Pray excuse my apparent irrelevance, but . . .――(College Crown English-Japanese-Dictionary)（確かな的はずれ）

He is a sure thing to succeed my father in the company.（確実な人）

For the fliers to have stayed where their plane was wreched would have meant certain death.（確かな死）

an assured income（確実な収入）

undoubted evidence（確かな証拠）

There before him was positive evidence that the stream now flowed in the opposite direction, towards the church.――Read, The Green

Child（確かな証拠）

1-2. 圧縮表現による「形容詞＋名詞」

She put a hand out to seize him, dry and white with constant soda, the nails cut to the quick, . . .——Greene, the Fallen Idol（常時の洗濯ソーダ）

上文の形容詞 constant は形式上は名詞 soda を修飾しているが，意味上はどうであろうか。次の例文と比較してみることにする。

i）a nice cup of tea

ii）I balanced a thoughtful lamp of sugar on the teaspoon.（『現代の英文法の7巻』）

iii）constant soda

i）の形容詞 nice は形式上は cup を修飾しているが，意味上は a cup of nice tea と置き換えできるように名詞 tea を修飾している。ii）の形容詞 thoughtful は，ある動作をしている「動作主」の状態を示す様態の副詞に相当する役目をしている。つまり，ii）の文を

I thoughtfully balanced a lamp of sugar on the teaspoon.

と置き換えることができるが，「形容詞＋名詞」の表現部分を

a lamp of sugar was thoughtful

とすることができない。言い換えれば，

I was thoughtful.

I balanced a lamp of sugar on the teaspoon.

の二文から 'shifting' などの過程をへて，「形容詞＋名詞」表現という Junction 形式になったのである。

一方，iii）の「constant soda」は i）のような分析では説明できない。つまり，constant と soda の関係は，constant であるものは「洗濯ソーダ」ではなく，「洗濯ソーダを使用していること」なのである。言い換えると，「constantly to use soda」という関係である。このように見てくると，形

式上は形容詞 constant は名詞 soda を修飾しているが，意味上は，名詞 soda の中に圧縮されてつめこまれた「使用すること」を修飾しているのである。二，三の例を掲げておこう。

In the shocked vaxed silence that followed the unnecessary intimacy he began to speak without waiting for any introduction from Crashaw.——Greene, Proof Pasitive（不必要な内証事を親しげに言うこと）

She is in no immediate danger.（目前の危険）

主要参考文献

Curme, G. O. : Parts of Speech and Accidence (1935) : Syntax (1931)
Jespersen, O. : Modern English Grammar Part II (1954)
小川佐太郎：『形容詞』（英文法シリーズ，1971）
吉川美夫：『文』（下）（英文法シリーズ，1971）：『英文法要説』（改訂版）（1970）
安井稔とその他：『形容詞』（現代の英文法，1982）
池上嘉彦：『英詩の文法』（1980）
荒木一雄：『英文法—理論と実践』（1970）
中島文雄：『文法の原理—意味論的研究』（1968）